



Cisco APIC-EM を有効にして会議をトラブルシュート

このセクションでは、次の点について説明します。

- [Cisco APIC-EM を有効にして会議をトラブルシュート \(1 ページ\)](#)

Cisco APIC-EM を有効にして会議をトラブルシュート

この章では、Cisco APIC-EM を有効にして会議をトラブルシュートする方法について説明します。

Cisco APIC-EM の概要

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module (APIC EM) では、ポリシーベースのアプリケーションプロファイルを一元的に自動化することができます。Cisco APIC-EM は既存のネットワーク インフラストラクチャと連携し、ネットワーク全体にわたるネットワークポリシーの導入と準拠に関する確認作業を自動化します。詳細については、「[Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module](#)」を参照してください。ネットワークに Cisco APIC EM を導入する際の詳細については、『[Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module 導入ガイド](#)』を参照してください。

Cisco Prime Collaboration Assurance は Cisco APIC と統合し、進行中の音声またはビデオ会議のメディアパスを追跡および監視し、メディアパスの品質を低下させる原因となるネットワーク要素を自動的にトラブルシュートします。

Cisco APIC-EM の主な機能は、次のとおりです。

- ミッドポイントまたは企業ネットワーク デバイス (ルータ、スイッチ、ホスト) を監視し、メディアパスのトラブルシューティングを行います。
- Cisco Prime Collaboration Assurance から受信した 5 タプル (発信元 IP アドレス、宛先アドレス、発信元ポート、宛先ポート、プロトコル) に基づき、パストレースを実行します。



(注) パス トレースとその制限事項の詳細については、『[Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module 設定ガイド](#)』の「パス トレースの実行」セクションを参照してください。

- デバイスを管理するには、SNMP および CLI の両方のクレデンシャルが必要です。
- 特定のフローに対して、メディアパスやパス統計情報（デバイス統計、インターフェイス統計、PerfMon統計）を直接 Cisco Prime Collaboration Assurance に提供します。
- 特定のフローがメディアフローの統計をフェッチするため、ミッドポイントでオンデマンドの PerfMon 設定を行います。会議のトラブルシューティングが終了すると、PerfMon 設定は削除されます。



(注) PerfMon データが収集可能なプラットフォームの詳細については、http://apic-em/wiki/Category:Testing/Platform_Support#APIC-EM_PLATFORM_SUPPORTの Wiki ページを参照してください。

- 不明な状態にある宛先エンドポイントで、パスのトラブルシューティングを有効にします。



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance 11.5 Service Pack 1 は、11.5 リリースからのみアップグレードできます。

Cisco APIC-EM コントローラ統合の設定

Cisco Prime Collaboration Assurance では、[Cisco APIC-EMコントローラインテグレーションの設定 (Cisco APIC-EM Controller Integration Settings)]を使用して、次に示すようにメディア会議の品質の問題をトラブルシュートできます。[アラームおよびレポートの管理 (Alarm & Report Administration)] > [APIC-EM & Prime のインテグレーション (APIC-EM & Prime Integration)]。

始める前に

Cisco APIC-EM のロール ROLE_POLICY_ADMIN にユーザが割り当てられていることを確認します。

ステップ 1 選択 [アラームおよびレポートの管理 (Alarm & Report Administration)] > [APIC-EM & Prime のインテグレーション (APIC-EM & Prime Integration)]。

ステップ 2 [APIC-EMコントローラのインテグレーションの設定 (APIC-EM Controller Integration Settings)] ペインに有効な Cisco APIC-EM クレデンシャルを入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

- a) Cisco APIC-EM API が入力されたクレデンシャルでアクセスできる場合、Cisco Prime Collaboration Assurance はデータベースに設定の詳細を保存し、ポップアップ メッセージを表示します。
APIC-EM credentials are saved successfully.
- b) Cisco APIC-EM API が入力されたログイン格情報を使用してアクセスできない場合、Cisco Prime Collaboration Assurance は警告メッセージを表示します。
APIC-EM is not accessible with the credentials provided. Please verify the credentials and try again.

ステップ 3 [リセット (Reset)] をクリックすると、[APIC-EMコントローラインテグレーションの設定 (APIC-EM Controller Integration Settings)] にある Cisco APIC-EM 設定の詳細がクリアされます。

(注) Cisco APIC-EM バージョン 1.2.x は、Cisco Prime Collaboration Assurance リリース 11.5 Service Pack 1 で検証済みです。

Cisco APIC-EM Controller Integration Settings Pane : フィールドの説明

表 1: Cisco APIC-EM Controller Integration Settings Pane のフィールドの説明

フィールド	説明
[IPアドレス (IP Address)]	クラスタの Cisco APIC-EM Controller Management IP アドレスです。到達可能なホスト IP アドレスまたは APIC-EM クラスタの仮想 IP アドレスを入力します。
[HTTP Username] と [Password]	Cisco APIC-EM サーバのログインクレデンシャルです。

トラブルシューティング

問題 : テスト接続に失敗しました。

推奨事項 :

- [APIC-EM Controller Integration Settings Pane] のフィールドにあるクレデンシャルを使用して、Cisco APIC-EM API がアクセスできることを確認します。
- ROLE_POLICY_ADMIN ロールが割り当てられていることを確認します。

Cisco APIC-EM を使用した会議のトラブルシューティング

次の手順には、会議のトラブルシュートを行うための高レベルな手順が含まれています。

始める前に

Cisco Prime Collaboration Assurance が Cisco APIC-EM に統合されていることを確認します。詳細については、[Cisco APIC-EM コントローラ統合の設定 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 Cisco Prime Collaboration Assurance は、指定されたコール区間のエンドポイントから受信した 5 要素の情報を提供することによって、SDN パスのトレースを開始します。

Cisco APIC-EM は、要求を追跡するためのフローを作成します。

ステップ 2 Cisco Prime Collaboration Assurance は、このフローを使用して、メディア パスとパス統計情報を収集します。

Cisco APIC-EM は、指定されたフローのパスに含まれるデバイス（入力または出力インターフェイス）でパフォーマンス モニタの設定を有効にします。トラブルシュートが終了すると、PerfMon の設定が削除されます。

ステップ 3 Cisco Prime Collaboration Assurance は、Cisco APIC-EM コントローラからの各ノードのメディアフローの統計（パケット損失、ジッター、CPU 使用率など）を定期的に収集します。

ステップ 4 Cisco Prime Collaboration Assurance は、エンドポイントのポーリングを継続し、エンドポイントからメディア統計を収集します。

例

次の図は、会議のトラブルシュートを行うための、Cisco Prime Collaboration Assurance と Cisco APIC-EM の対話を示しています。

図 1: Cisco Prime Collaboration Assurance と Cisco APIC-EM 間の対話

